

農作業特報

黒 部 市
黒 部 市 農 業 技 術 会 議

今年の田植以降の水稻の生育は、5月初旬の降雹被害や軟弱苗の植え痛みが見られましたが、5月中旬以降は気温が高めに経過していることから、概ね順調に推移しています。

今後は根量を増やし、過剰な分けつを抑えるため、「溝掘り・中干し」を始めましょう。

1 中干しに入る前に、確実に排水ができる溝を作る

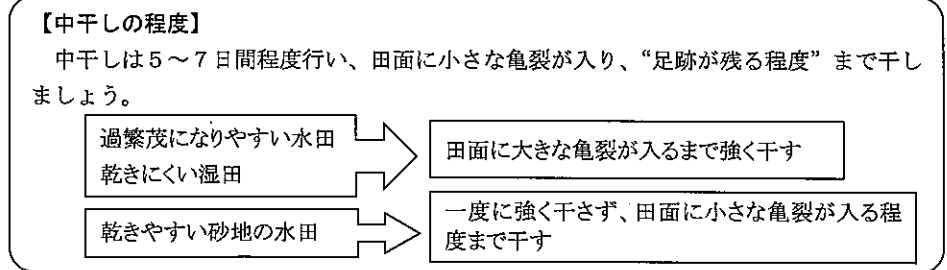
中干しやその後の間断かん水を効果的に行うため、田植えの早いほ場から早急に溝掘りを実施しましょう。

- 【溝掘りのポイント】
- ①土が柔らかいと掘りにくいので、事前に軽く干す。
 - ②乗用溝掘機（バイク型溝掘機や乗用管理機）を使う場合は、ヒタヒタ水程度に再入水する。
 - ③溝掘り本数は5mに1本程度を目安とし、干しにくいところを重点的に掘る。
 - ④枕地や外周に掘った溝と水尻を連結し、排水を促す。



土が柔らか過ぎて、溝が崩れている。

2 中干しは、田植後4週間まで（莖数15本/株程度を目途）に開始する



- 【中干しの効果】
- ① 土壌中の有害ガスを除去し、根の生育を健全にする。
 - ② 過剰な分けつの発生を抑える。
 - ③ 葉が立ち、稲の受光姿勢が良くなる。
 - ④ 田面が硬くなり、コンバイン作業に備えることができる。



3 中干し後は「間断かん水」の実施

しっかり田んぼが干せた後は、幼穂形成期頃（7月上旬頃）まで「間断かん水」を行いましょう。

4 エスアイ加里の施用

ケイ酸やカリは稲体や根の活力を高め、稲の受光体勢を改善し、下葉の枯上がりや軽減する効果があります。作付前に土壌改良資材を施用していない場合や基肥一発肥料を使用している場合は、追肥で補いましょう。

肥料名	施用時期	施用量
エスアイ加里特号	6月20日頃～	15kg/10a


5 後期除草剤の散布

初中期一発剤や中期剤の散布後も雑草が残った場合は、雑草の種類に応じた後期剤を散布しましょう。

【雑草が残った場合】

適用雑草	除草剤名	散布量	散布時期	注意事項
ノビエのみ	クリンチャー 1キロ粒剤	1.5kg /10a	田植後 25日～ ノビエ5葉期まで (収穫 30日前まで)	5cm程度の深水にして散布し、その後7日間は止水管理とし、落水やかけ流しをしない。
	トドメMF乳剤	200ml /10a (1000ccに希釈)	田植後 14日～ ノビエ7葉期まで (収穫 50日前まで)	落水散布を基本とするが、湛水散布も可能。散布後2週間程度の残効が期待できる。
広葉雑草	バサグラン粒剤	3～4kg /10a	田植後 15～55日 ※クログワイは田植後 15～35日(草丈15cm以下)まで (収穫 60日前まで)	落水し、田面が濡った状態で晴天日を選んで散布する。散布後3～4日間は水を入れれない。イネ科雑草には効果が無い。
ノビエや 広葉雑草	ロイヤント乳剤	200ml /10a (1000ccに希釈)	田植後 20日～ ノビエ5葉期まで (収穫 45日前まで)	落水散布またはごく浅水で散布または湛水散布。直播水稻にも使えます。
	アレイルSC	500ml /10a (50～1000ccに希釈)	田植後 25日～ ノビエ5葉期まで (収穫 45日前まで) 出穂始期 15日前まで	湛水散布または落水散布。

※この他の除草剤や初めて使用する除草剤については指導員等にご相談ください。

 農業用水路の転落事故には気をつけて！！